

Title	Risk factors of early spontaneous abortions among Japanese : a matched case-control study
Author(s)	馬場, 幸子
Citation	
Issue Date	
oaire:version	
URL	https://hdl.handle.net/11094/58970
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照 ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏 名	ばば やまさき さち こ 馬場 (山崎) 幸 子
博士の専攻分野の名称	博 士 (医学)
学 位 記 番 号	第 2 4 8 2 2 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 23 年 4 月 27 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第4条第2項該当
学 位 論 文 名	Risk factors of early spontaneous abortions among Japanese: a matched case-control study (日本人の早期流産に対するリスク要因について：マッチング症例対照研究)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 磯 博康 (副査) 教 授 木村 正 教 授 的場 梁次

論 文 内 容 の 要 旨

〔 目 的 〕

早期流産のリスクファクターについて日本人女性を対象とした疫学研究はこれまで行われてこなかった。本研究は、大阪府母子保健総合医療センターにおける妊娠12週未満の早期流産患者を対象とし、妊娠早期流産患者の生殖歴、生活習慣及び夫の喫煙状況の影響についての分析を行い、早期流産の予防のための疫学的エビデンスを得ることを目的とする。

〔 方法と成績 〕

対象は2001年から2005年に大阪府母子保健総合医療センターに入院した妊婦とした。症例は妊娠11週6日までに流産と診断され入院による流産処置を受けた430症例で、対照として同年の正期産出産者のうち年齢をマッチングして860名を抽出した。妊娠週数、身体的因子（年齢、身長、体重）、産科的因子（経妊回数、経産回数、流産回数、人工妊娠中絶回数）、生活習慣（喫煙歴、飲酒歴、職業）、夫の年齢・喫煙歴についてカルテから情報を収集した。早期流産とリスク要因との関連について、case-control studyを行い、ロジスティック回帰モデルを用いて因子のオッズ比と95%信頼区間を単変量、多変量解析で求めた。

早期流産のリスクは過去の早期流産歴のある女性で高かった。流産経験0回を基準にすると、早期流産の多変量調整オッズ比は流産経験1回：1.98 (95%信頼区間：1.35-2.89)、2回：2.36 (95%信頼区間：1.47-3.79)、3回：8.73 (95%信頼区間：5.22-14.62)であった。また生活習慣では、1日20本以上の喫煙に対する多変量調整オッズ比は2.39 (95%信頼区間：1.26-4.25)であった。これは諸外国での先行研究の結果と一致した。また喫煙歴と過去流産歴には相加的な関係があり、喫煙している過去流産歴のある女性では多変量調整オ

ッズ比は5.56(95%信頼区間：3.04-10.1)であった。就労に対する多変量調整オッズ比は1.65（95%信頼区間：1.17-2.35）であった。また就労と過去流産歴も相加的な関係があり、就労している過去流産歴のある女性では多変量調整オッズ比は4.31(95%信頼区間：2.37-7.86)であった。欧米では特定の職業と早期流産についていくつかの調査がなされており、たとえばスウェーデンでの1980年代の調査では建設業や農業など肉体的負担の大きな職業への女性の就労と早期流産で関連を認めた。日本においては主婦の早期流産率が8.9%であったのに対して就労女性では13.1%と有意に高率であったという報告があるが、この調査では年齢による調整は行われていなかった。日本以外で職種によらず就労が早期流産のリスクとなる報告はこれまで見当たらず、その要因として日本において夫婦の家事育児の分担で女性に偏っていることが影響している可能性が考えられた。肥満に対する多変量調整オッズ比は1.40(95%信頼区間：0.87-2.25)であり、早期流産の間に強い関連は認められなかったが、日本では欧米と異なりやせの女性が多く肥満の女性が少ないことが影響していると考えられた。また1日20本以上の喫煙をする夫をもつ女性では多変量調整オッズ比が1.30（95%信頼区間：0.82-2.06）であり早期流産との間に強い関連は認められなかった。

〔 総 括 〕

日本人女性の早期流産に関して喫煙と就労が重要な公衆衛生問題であることが示された。

論文審査の結果の要旨

早期流産は全妊娠の約30%に起こるといわれ、予防のための疫学的エビデンスを得ることは重要である。そこで、2001年から2005年までに大阪府母子保健総合医療センターに入院した妊婦のうち、妊娠11週6日までに流産と診断され入院による流産処置を受けた430症例と同年の正期産出産者のうち年齢をマッチングして抽出した860名を対照として、早期流産とリスク要因との関連についてマッチング症例対照研究を行った。ロジスティック回帰モデルを用いて因子のオッズ比を単変量、多変量解析で求めた。結果、早期流産のリスクは過去の早期流産歴のある女性や、1日20本以上の喫煙をしている女性、就労している女性で有意に高かった。また早期流産のリスク要因として喫煙と過去流産歴、並びに就労と過去流産歴との間に相加的な関係が認められた。日本人女性の早期流産のリスク要因について明らかにした疫学研究はこれまでなく、喫煙と就労が重要な公衆衛生問題であることを提示した研究であり、学位の授与に値すると考えられる。